

令和3年度神奈川県私立幼稚園新規採用教員研修

令和3年8月5日

こどもと大人の造形表現

鶴見大学短期大学部保育科准教授・附属三松幼稚園園長 鮫島良一

自己紹介

- ・ 鮫島良一（さめじまりょういち） 1965年鹿児島生まれ
- ・ 現職：附属三松幼稚園園長（鶴見大学短期大学部准教授）
- ・ 大学3年時、美術科教育法の授業で幼児の美術と出会う。
- ・ 以降、彫刻の制作活動をしながら、様々な保育園幼稚園で造形の先生をする。
- ・ 2013年養成校の教員となり、こどもの世界をフィールドに、こどもと遊び、こどもに学び、それを研究している。
- ・ 2018年より三松幼稚園の園長を兼務。



三松幼稚園

・ 鶴見大学短期大学部の附属園

・ 仏教保育をベースに
こどもの小さな発見や挑戦を大事にする保育を実践している





本日のmenu

こどもと大人の造形表現

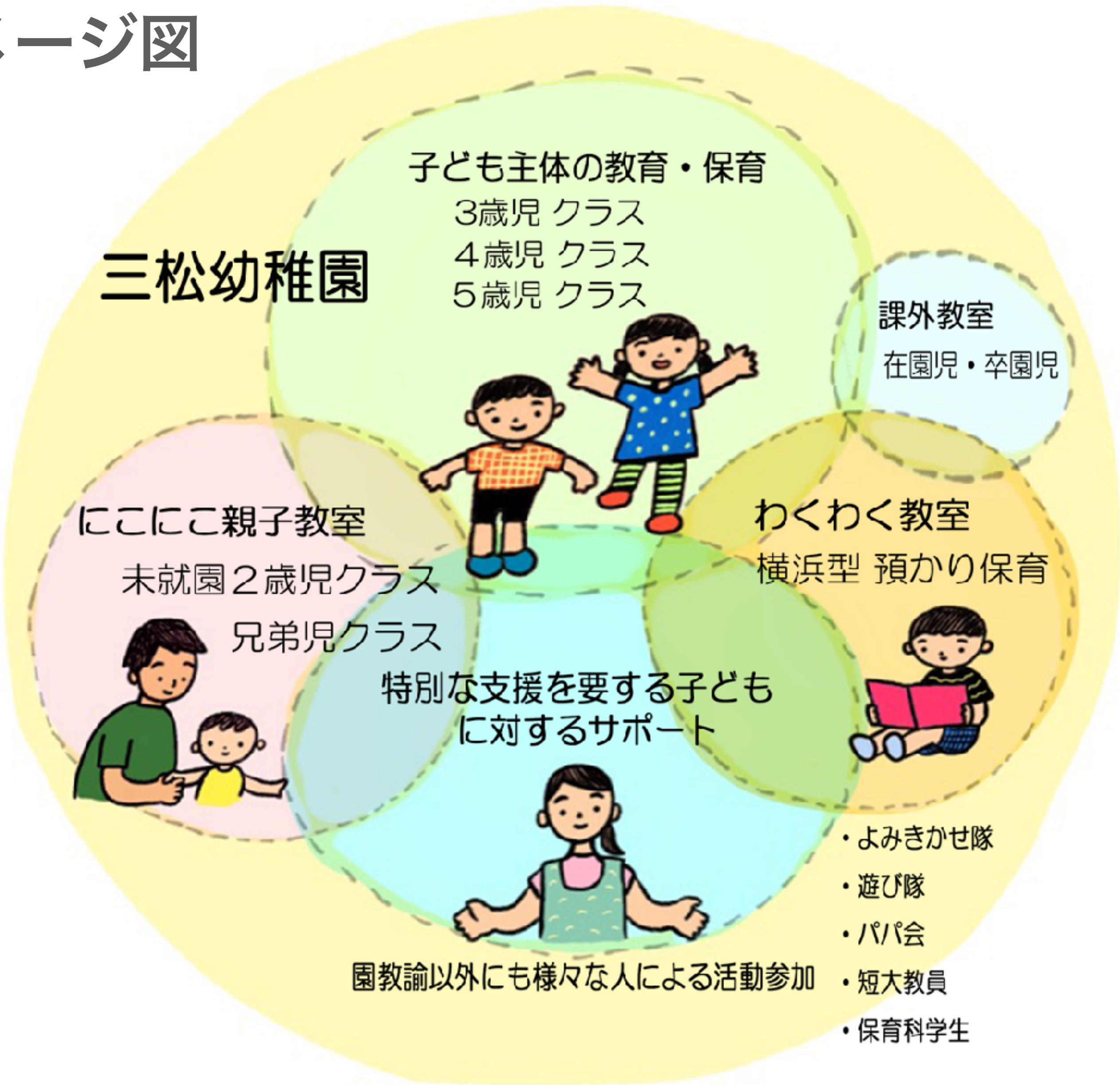
- ・ 1 はじめに 幼稚園ってどんなところ？
- ・ 2 こどもの造形表現をどこから考えるか？
- ・ 3 人の育ちと表現
- ・ 4 幼年に向かって成熟する近代の美術
- ・ 5 まとめ

はじめに

1. 幼稚園ってどんなところ？

- ・子どもにとって
- ・大人にとって
- ・あなたにとって
- ・社会の変化と幼稚園に望まれる役割の変化と多様化

現在の幼稚園のイメージ図



附属三松幼稚園の子どもをケアする教育体制

社会とともに変化すること・変わらぬこと

- ・ 新しい幼稚園教育要領の精神：『子ども主体の遊びを通した学びを大事に』
- ・ 来るべきAI時代を生き抜くための教育（OECDの影響大）
- ・ 経済学ベースの教育はリアリティをもたらす反面、効率主義に陥らないないかという危惧もある（AI時代の最大のノイズは人間？）
- ・ 近代学問体系：人間は、話し・生き・働く 存在→ 言語学・生物学・経済学
- ・ ●ヒトは生身の身体を持った生き物である。
- ・ ●人は環境との相互作用の中で自分を創っていく。

美術・表現教育をめぐる変化

「絵画製作」から、「造形」そして「表現」へ

- ・平成元年の幼稚園教育要領・保育所保育指針改定により、それまで教科的傾向の強かった6領域が子どもの自律的な育ちを支援する5つの視点として再編成。
- ・保育現場や養成校では、「大人の文化としての表現の指導」という考え方から
- ・「こどもの育ちとしての表現の理解と支援」という考え方への転換が求められる。
- ・どう考えればいいのか？
- ・具体的にどうすればいいのか？

こどもの造形表現をどこから考えるか？

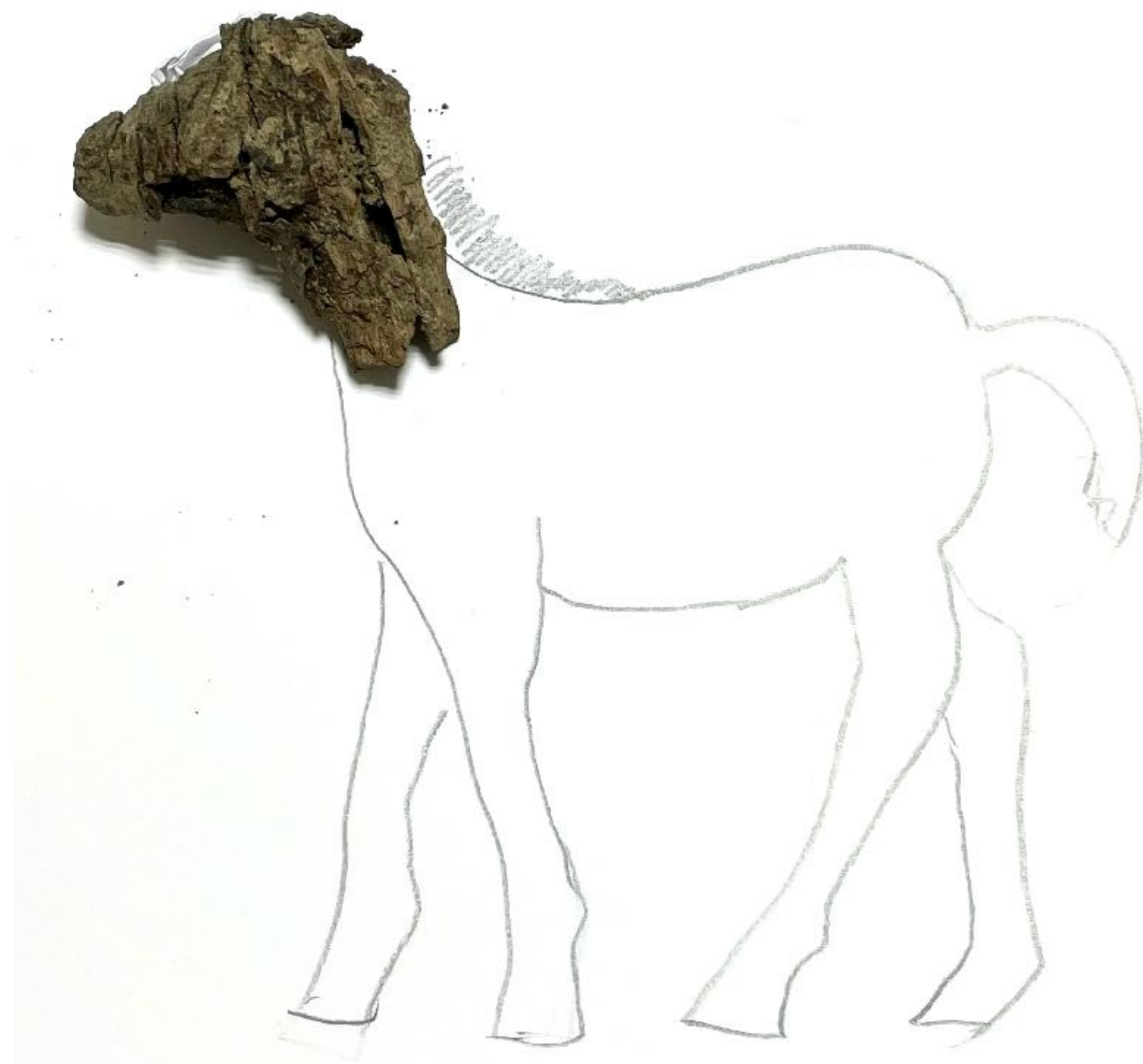
キーワード1 : ヒトの生まれと表現

- ・ 『人間はどこまで動物か』 アドルフ・ポルトマン (1961.岩波新書)
- ・ スイスの生物学者：1897年-1982年
- ・ 研究テーマ：巻貝の研究→鳥の行動研究→脊椎動物の比較形態学
- ・ 「生理的早産」 (生理的未熟)
- ・ 「離巢性」 と 「就巢性」

ある日の朝の出来事



えんちょうせんせい、おうま



ほんとだ！



ぱっかぱっか・・・

生まれたての仔馬



生まれたての人の赤ん坊

生理的早産（生理的未熟）

- ・ ヒトは他の動物に比べて、身体的にとっても未熟な状態で生まれてくる。
- ・ 「人間は生後一歳になって、真の哺乳類が生まれた時に実現している発育状態に、やっとたどりつく.....この人間がほかのほんとうの哺乳類なみに発達するには、われわれ人間の妊娠期間が現在よりもおよそ一ケ年のばされて、約二一カ月になるはずだろう」 （p61）
- ・ 人間の胎児は約21カ月ほど母親の胎内にいるべきなのに、約10カ月で早めに生まれてくるようになった
- ・ 二足歩行により骨盤の幅が狭くなり、脳が肥大化、産道を通れない
- ・ 脳の可塑性が高い（柔らかい）うちに出産できるようになったとも解釈できる。
- ・ こうしたプログラムの発動は「ネオテニー」とも呼ばれる。（戦略としての発育遅延）

人間特有の発達過程

- 1年分は母胎の中で生理的に育つのではなくて、外界に飛び出て、社会的な過程の中で育つとポルトマンは考えた。早産した分、人間のこどもは、さまざまなことを生理的に学ぶのではなくて社会的に学ぶ。
- 人間社会が自然的環境を超えて、文明を持ったり、文化を有したりする根源
- 生理的自立が早い＝馬や牛の子どもたちは、生まれてくる以前に自分が何であるかについてすでに生理的に決定されている。 メダカの学校
- ヒトの子どもは、お父さんやお母さんだけではなく、おじいちゃん、おばあちゃん、親戚の人々、幼稚園の先生、近所の人々、買い物先の店員、その他たくさんの人々に世話になってやっと歩き始める。つまり、直接の父や母ではない、家族ではない人たちの世話にもなりながら育つ。

ヒトの生まれと表現のまとめ

- ・ ヒトは、ゆっくり育つことで、環境との相互性の中で自己を生成していく。
- ・ ヒトは、自分を支える存在を求めている。
- ・ 「ネオテニー」という不思議：発育遅延 文化の創造と密接に関係
- ・ ヒトは幼児化することによって進化してきたといえるのではないか。
- ・ ディズニー、ピーターパン、桃太郎、モモの時間泥棒
- ・ 経済という切り口に寄ると効率やスピード重視になりがちだが、ゆっくり育つことが人を人間たらしめ、豊かにしているということの再確認が必要

こどもの造形表現をどこから考えるか？

キーワード2 : こどもの遊びと表現



大人

合理的思考

頭で考える

これはこういうもののだの世界

こども

純粹な関心

丸ごと感じる

これってなんだろうの世界









とろみの確認



乾いた土は、幕の内弁当

料理という名の科学実験



誕生日じゃない日
おめでとう

もう一つの醍醐味、土木工事





こどもの遊びと表現 まとめ

- ・ ● 自由な散策 : これってなんだろう？ こうしたらどうなるだろう？
- ・ → 創造は、自由と偶然 が原動力
- ・ ● ゆるやかなつながり : うんうんそっかー。困っている子はいないかな？
- ・ 応答的な関わり、時にはリードや提案も必要。
- ・ ◆ 子ども達がいつでも描いたり作ったりできるように室内や屋外の環境を整える
- ・ ☆ 幼児の造形表現：こどもたちの自由な選択と生き生きとした意味生成



ちょうになる
ちょうになるー

純粹な関心

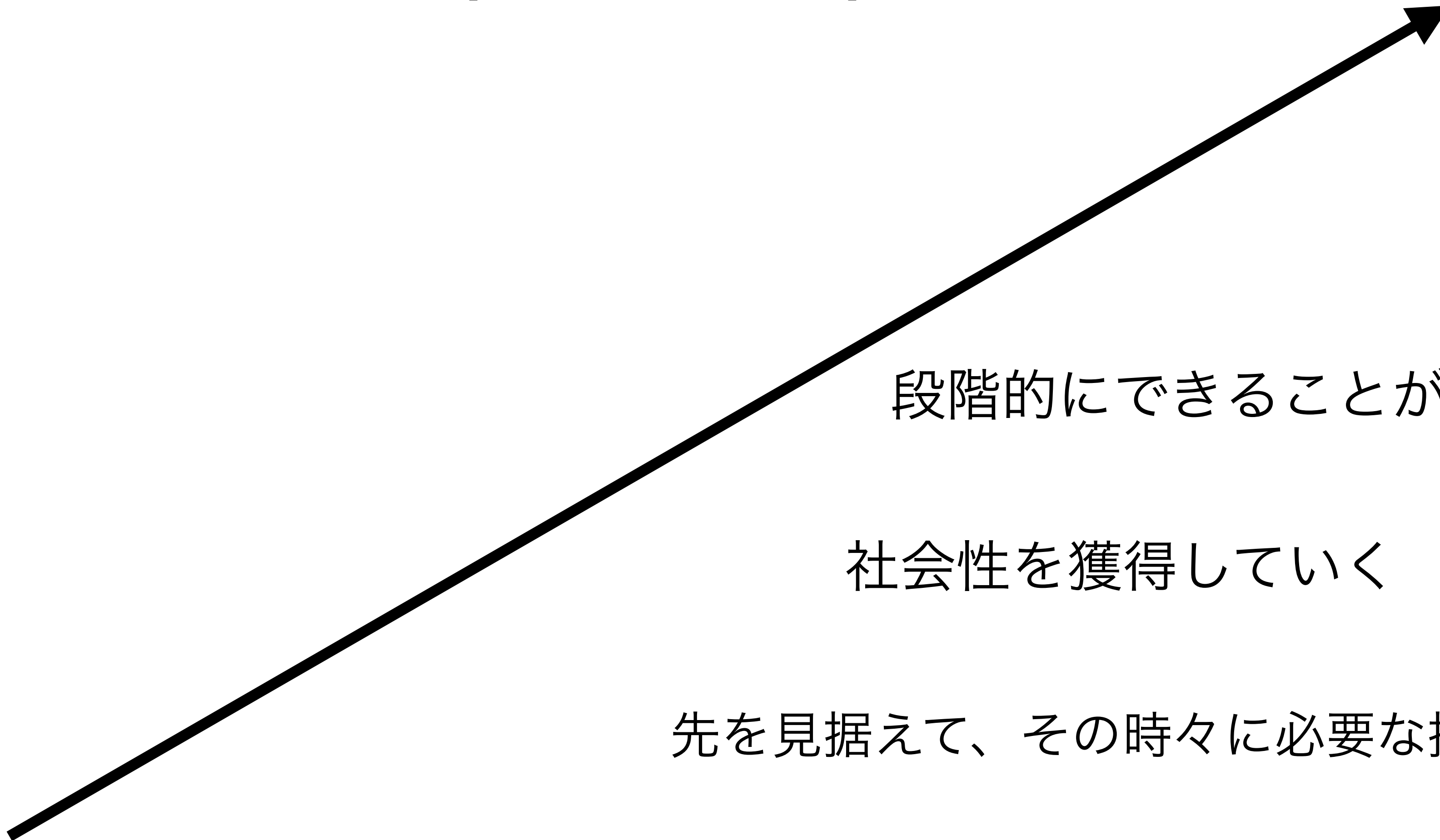
自己中心性：他者中心性

溶解体験

体験 と 経験

発達という視点（自己生成）

大人



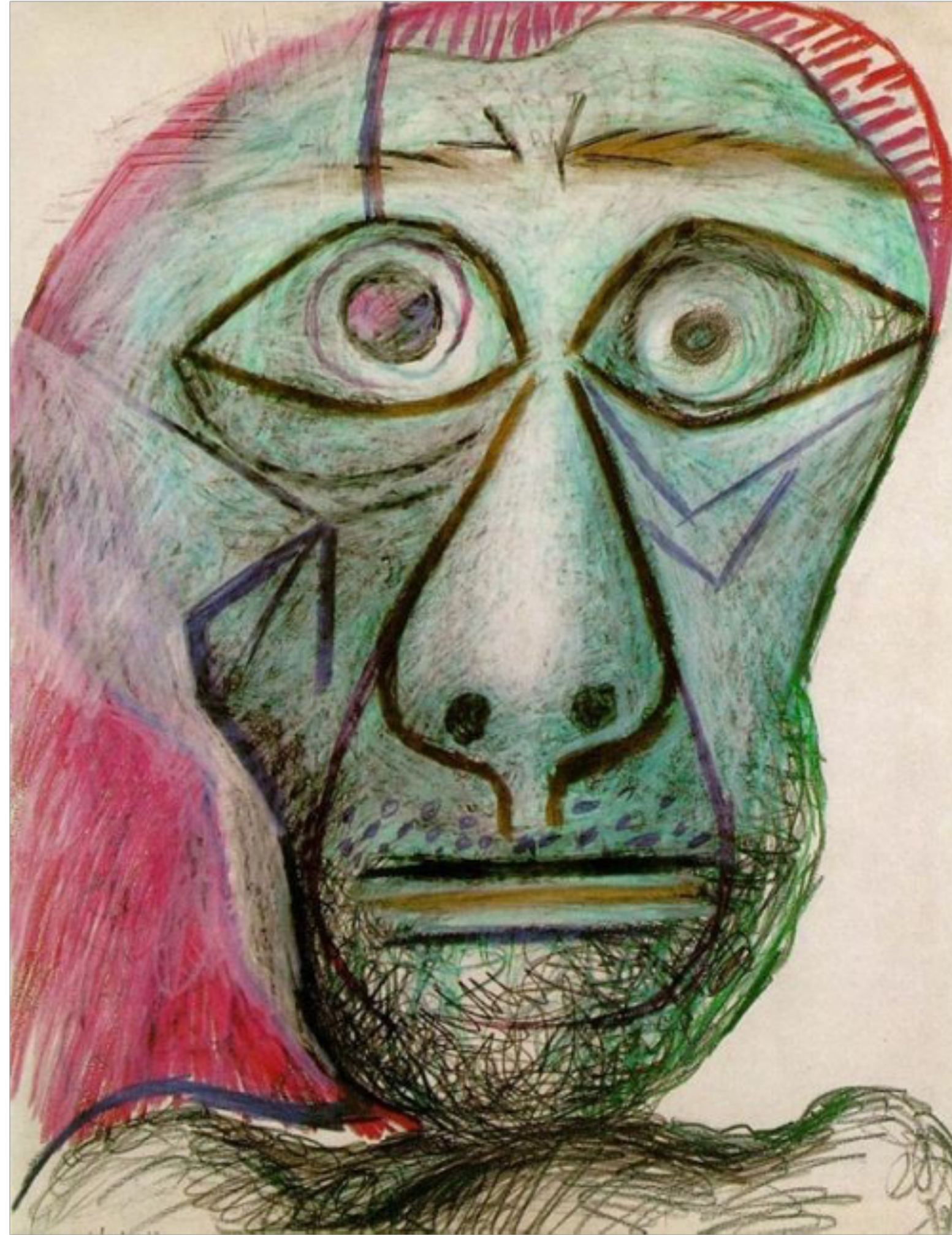
段階的にできることが増えていく

社会性を獲得していく

先を見据えて、その時々に必要な援助や指導を行う

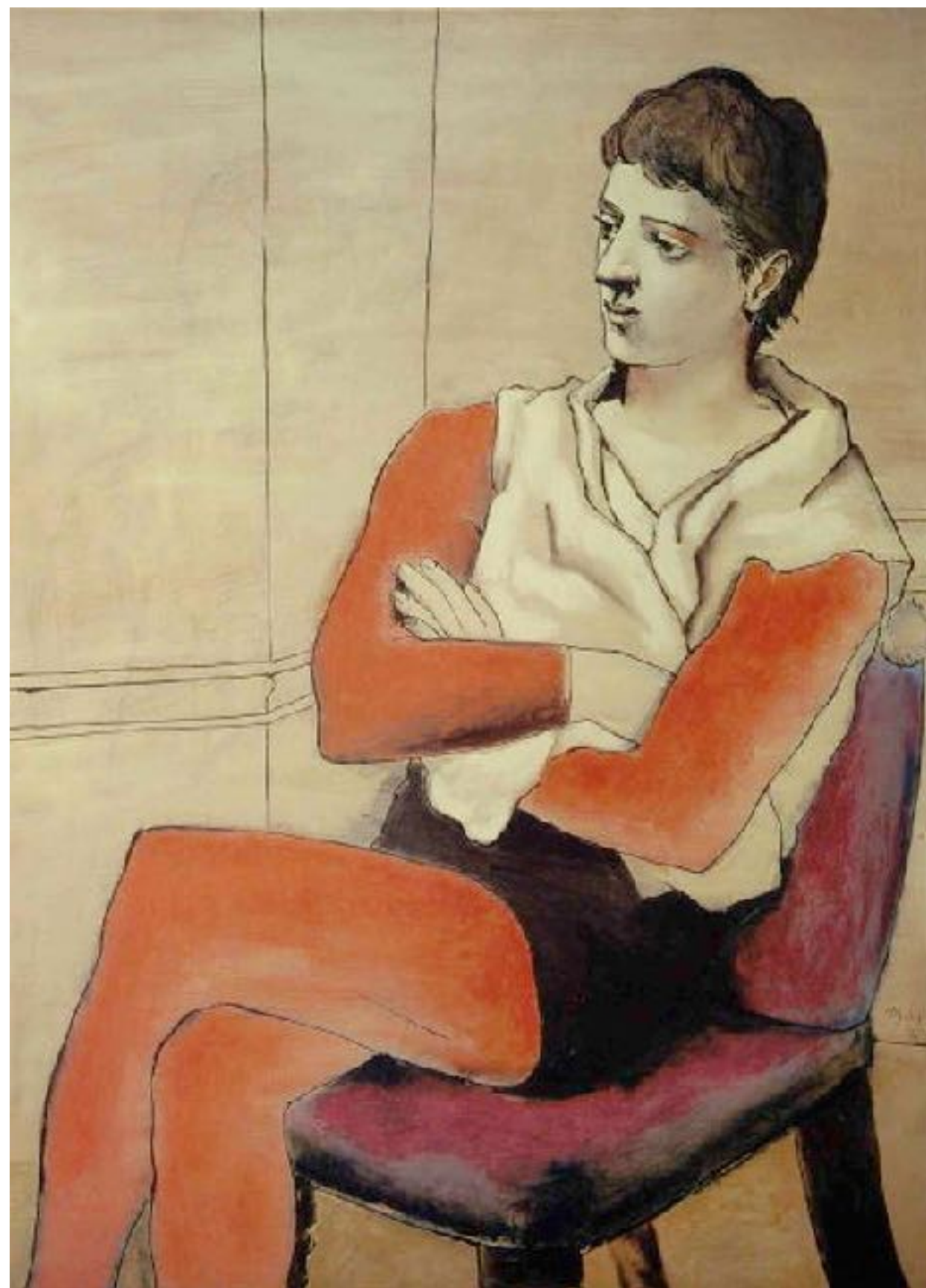
赤ん坊

一般的な教育という考え方の一つの方角



ピカソ自画像(90歳)

「ようやく子どものような絵が描けるようになった。ここまで来るのにずいぶん時間がかかったものだ」



「腕を組んで座るサルタンバンク」

ピカソ（1923）

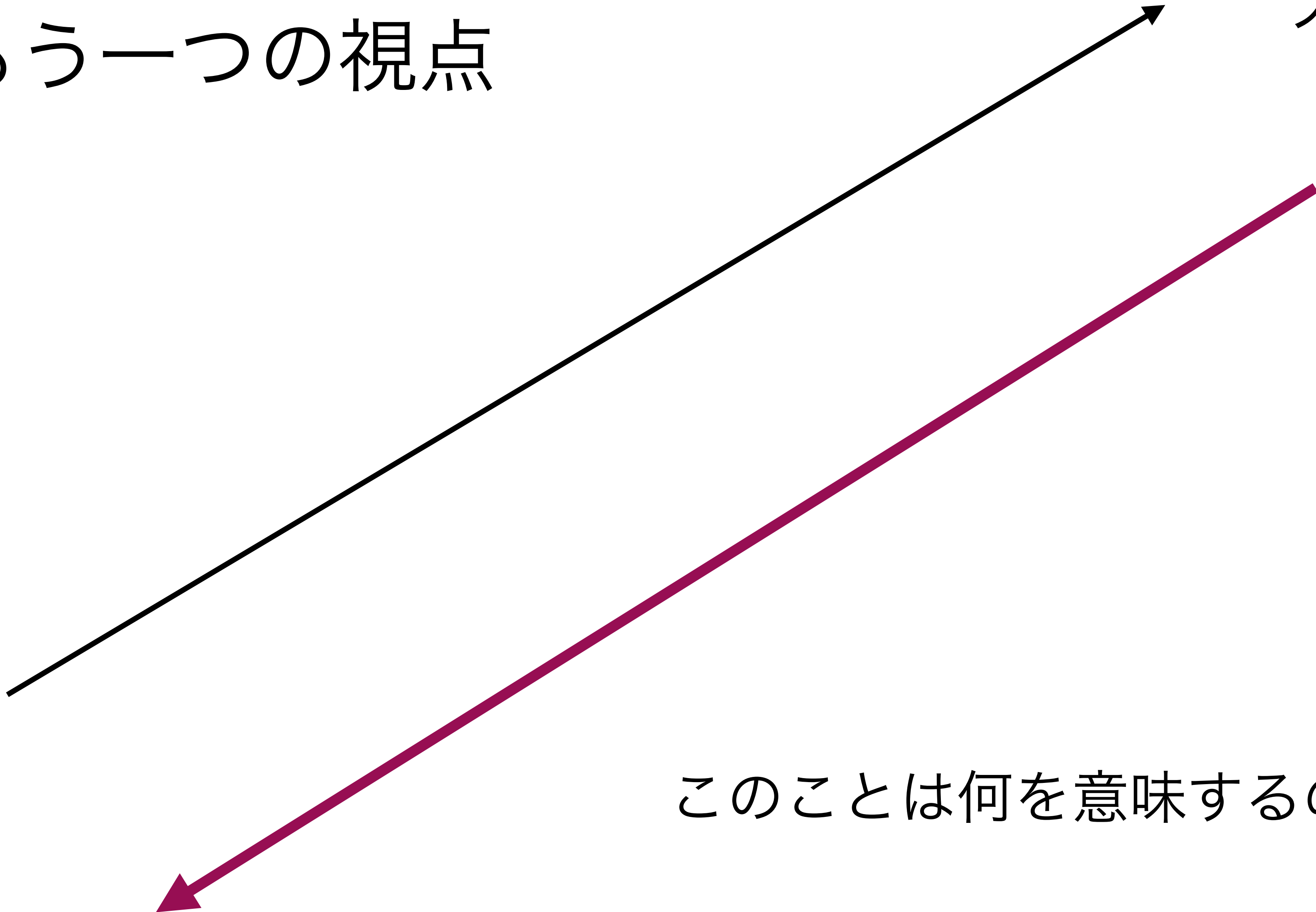
ブリヂストン美術館

もう一つの視点

大人

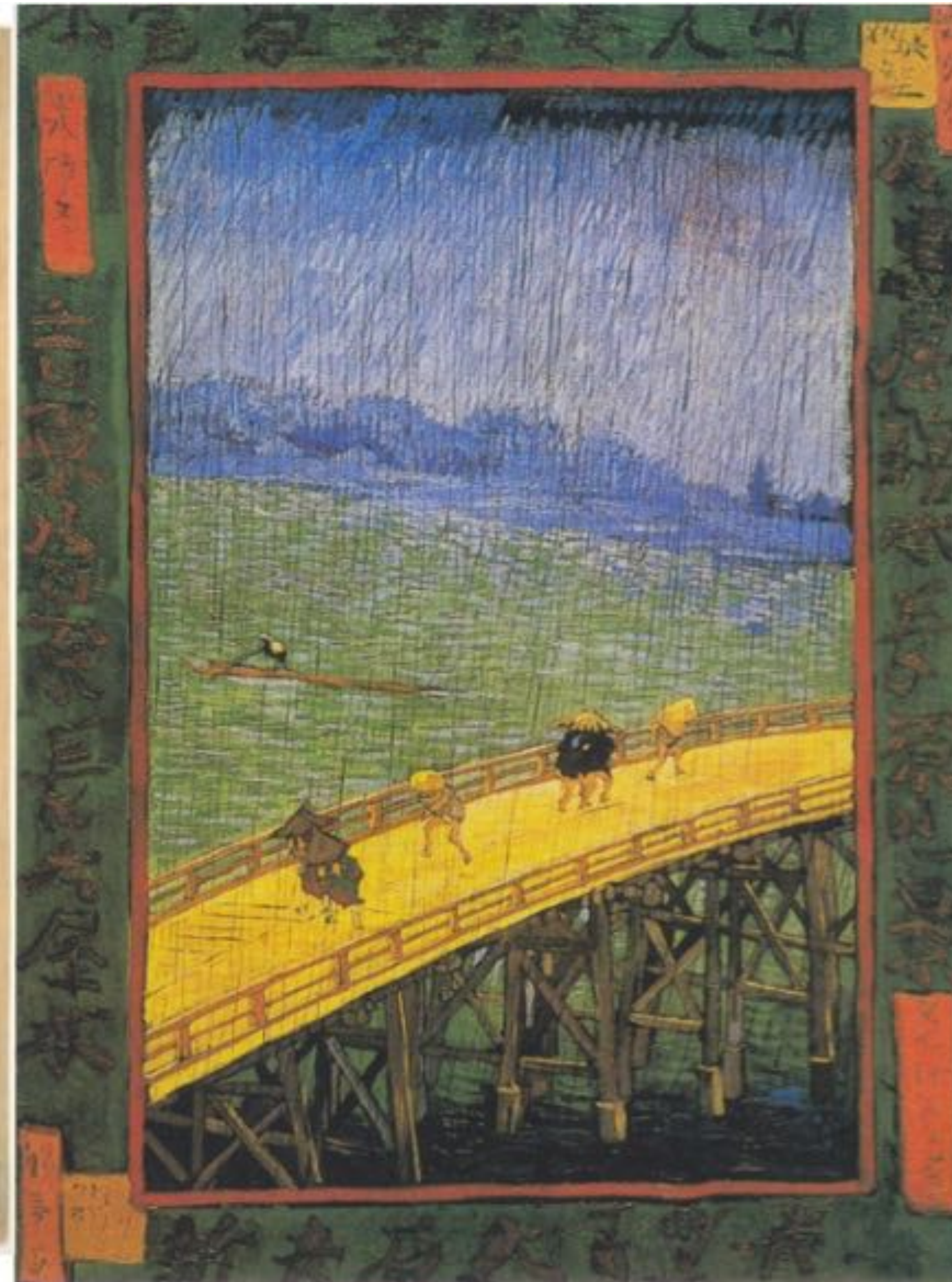
子ども

このことは何を意味するのか？



近代の美術 = 「子どもの発見」

- ◎ 大戦による絶望と挑戦的な美術運動（異文化の発見と希望）
 - ・ ジャポニズム … 後期印象派 ゴッホ、ボナール
 - ・ アフリカ彫刻 … ピカソ(キュビズム)、マチス(フォービズム)、ドラン、
 - ・ 子どもの美術… フランツ・チゼック：子どもの絵の学校(1897~1938)
 - ・ ダダイスム … デュシャン(オブジェ、レディメイド)
 - ・ 超現実主義（シュールレアリスム）… エルンスト、ダリ
 - ・ 精神病患者の美術 … 生の芸術 デュビュッフェ(アンフォルメル)
 - ・ バウハウス … クレー、カンディンスキー
- * 科学の眼から 目に見える物の向こうへ(人間の精神活動そのもの)



ゴッホによる浮世絵の模写



「アヴィニョンの娘たち」

パブロ・ピカソ(1907)

キュビズム





「チャンリングクロス橋」 (1906)

アンドレ・ドラン

フォービズム (野獣派)





Marcel Duchamp, "Fountain" 1917. (photograph by Alfred Stieglitz.)

マルセルデュシャン 『 泉 』







サルバトーレ・ダリ

シュールレアリスム

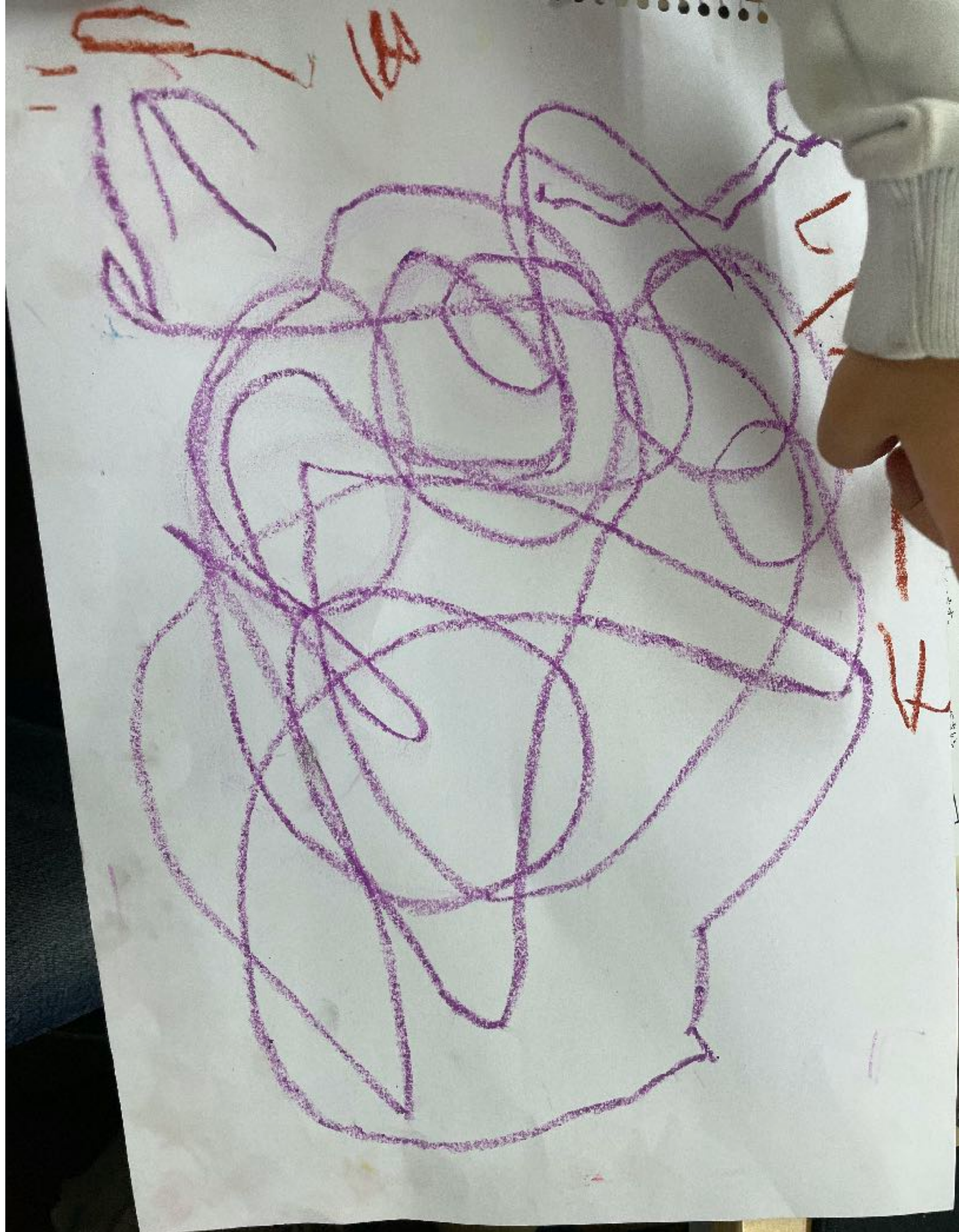




ジャン・デュビュッフェ

「子どもの目で見て子どものようにようにかく」









パウル・クレー

バウハウス ： 点線面 絵画の純化



カンディンスキー

抽象絵画の父・音楽のような絵画





2月の

いぬ

ハズ

7月

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

おさん

シュルレアリスムに象徴される20世紀の美術

- ・ 20世紀以降の美術：非＝知・異文化に学ぶ
- ・ アンドレ・ブルトン：「真の人生」に一番近いものは、幼年時代である。
（『シュールリアリズム宣言・溶ける魚』巖谷國士,岩波文庫1992,p71）
- ・ 「人間の原初的な本源の回復こそ」がシュルレアリストの課題
- ・ 幼年期の「知覚と表現の未分化」な状態に、通念に囚われない自由を見た
- ・ 『こども観』の変化：こどもをどのような存在とみなすかに関する大人社会で広く共有されている見方。
- ・ 幼稚で未熟な存在から、無垢で可能性豊かな存在という認識へ（純粹性・野生）

まとめ

こども 造形 大人

- ・ **自己生成**：生まれ・環境との相互作用・遊びの創造・文化
- ・ **自己変容**：非＝知との出会い
- ・ 20世紀の美術は、内なる子どもの力を掘り起こし「幼年に向かって成熟」
- ・ 保育の魅力の一つは、内なる子ども（無垢なる時間）を再訪できること
- ・ ニーチェは、アポロンとディオニソスという二つのギリシア神話の神を芸術の拠り所として示した。（悲劇の誕生）
- ・ アポロンの： ・ 形式・秩序
- ・ ディオニソスの： 陶醉・衝動

アポロンの
形式・秩序+

ディオニソスの
陶醉・衝動 -

ディオニソスの
陶醉・衝動 +

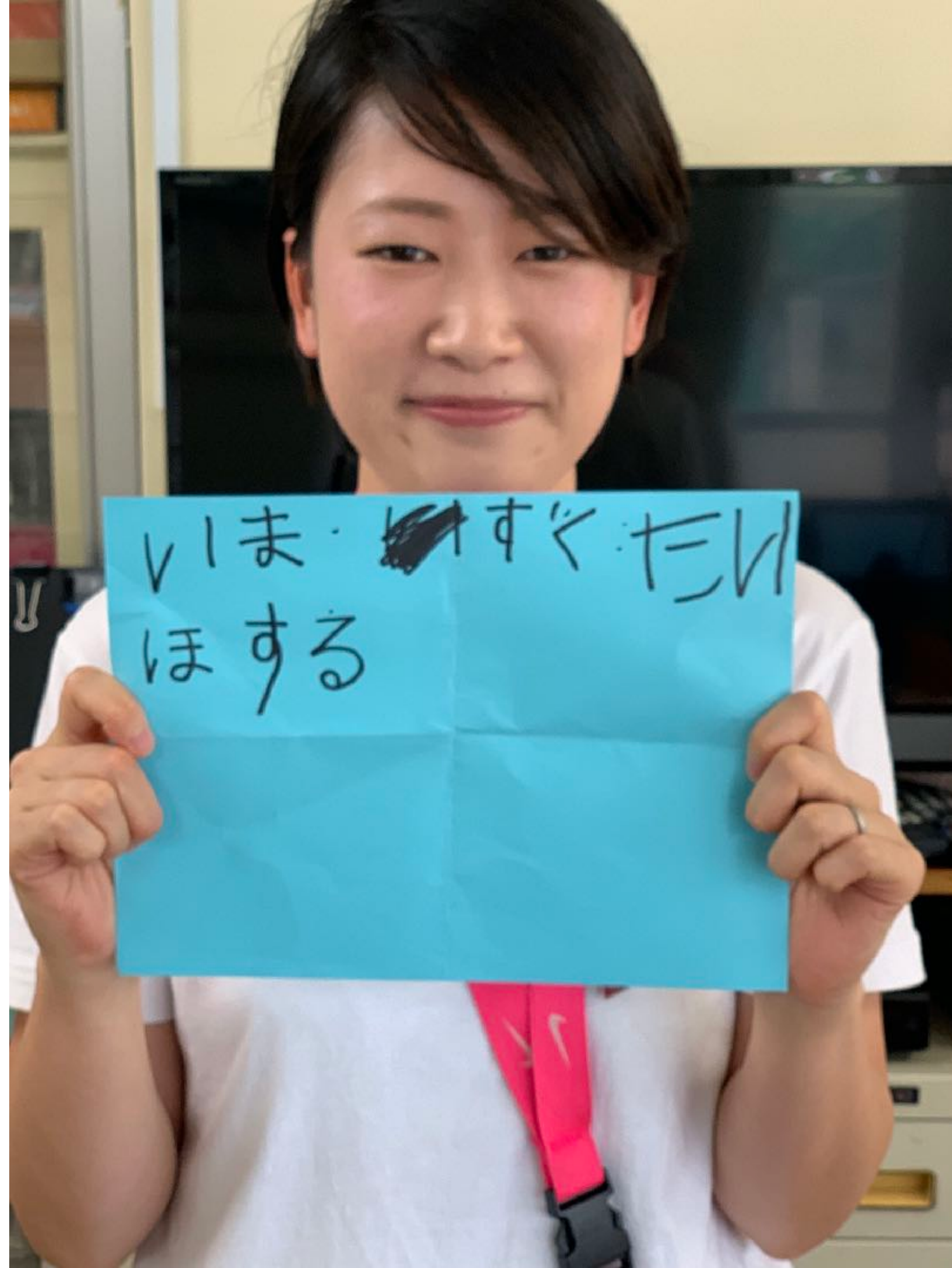
アポロンの
形式・秩序 -

近代の文明は合理性とその美しさを求めてきました。

一方で、子どもの世界はその対極にあり、その原始性、多元的な時間こそ、疲弊した現代人を甦生させるエネルギーを持つことが指摘されています。それは、古代からある「遊びに没頭する人間」の素晴らしさです。

言葉の持つ拘束力から自由な幼児は、たとえ言葉でコミュニケーションできなくとも、身振りや仕草で会話して遊びます。現代はあまりにも「コミュニケーション」や「きずな」や「他者の理解」などが求められすぎるのではないかと、幼い子の自由さをみて思わざるを得ません。彼らの遊びでは突然、全く異なる内容に変わり急に終ったりする。そのあっけらかんとした非合理性、その豊かな即興性に拍手を送りたいと思います。子どもの行動、遊びの原理は、善－悪、正しいか－間違っているかではなく、面白く、楽しい、快感であることが全てです。

私達は教育や文化の内に「子どもの遊び」のような、生きる歓びの息づく世界を決して失ってはならないと思います。（寺尾幼稚園 亀井観一郎）



いま・~~は~~すぐ
たれほする

参考文献

- ・ 『人間はどこまで動物か』 アドルフ・ポルトマン（1961.岩波新書）
- ・ 『自己変容という物語』 矢野智司,2000.金子書房
- ・ 『シュールリアリズム宣言・溶ける魚』 アンドレ・ブルトン （巖谷國士解説,1992.岩波文庫）
- ・ 『道化の民俗学』 山口昌男（2007.岩波文庫）
- ・ 『つくる かく あそぶ こどものアートブック』 鮫島良一・馬場千晶（2021日本文教出版）
- ・ 作品画像はwikiおよび所蔵美術館アーカイブ

＊本研修の学習以外での使用を禁じます。

ご静聴ありがとうございました。